

令和4年度 環境で地域を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業
キックオフミーティング 配布資料

活動団体名：箕川未来協議会

活動地域：滋賀県東近江市

活動におけるテーマ

『2050年の賑わう山里「箕川郷」に向けて』

本事業への関わり：2年目

活動団体と地域の紹介

【名称】箕川未来協議会 【設立】2021年2月 【活動地域】滋賀県東近江市箕川町

【目的】本協議会は、地域にひとときの住人として滞在しながら、山の暮らしや文化を体験できる郷として箕川町を再生し、若者の地方回帰の促進、林業の振興などを通じて、未来につながる豊かな地域づくりを推進することを目的として設置する。



活動メンバー



山の暮らしの文化体験



立ち上げのきっかけになった視察



事業予定エリア

活動団体と地域の紹介



広域で見た東近江市の立地



山に囲まれた箕川町集落の立地

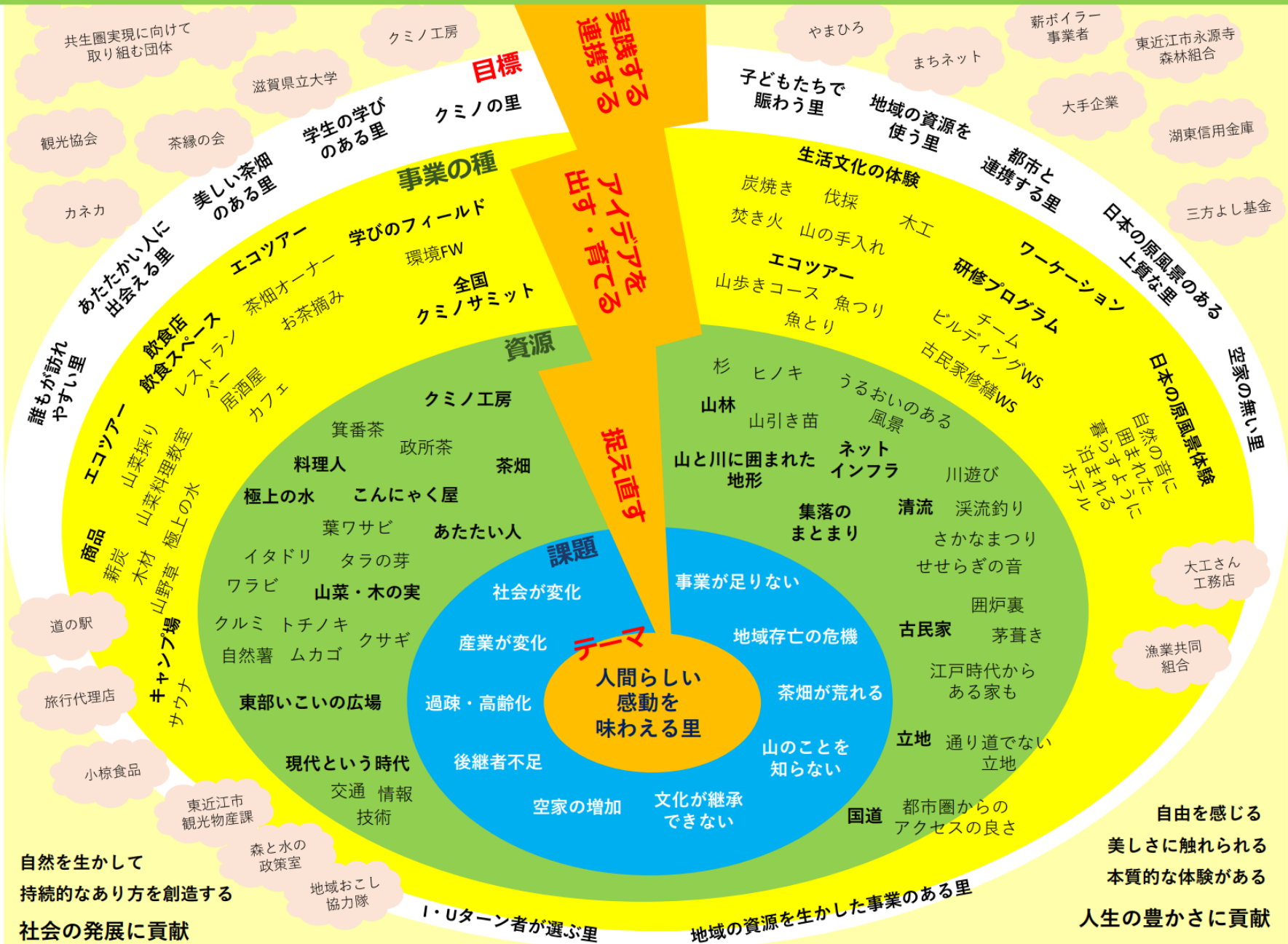


東近江市は分水嶺から湖まで一つの自治体がカバーしている



箕川町集落の霧囲気

現時点の地域版マンダラ



活動計画（概要）

地域プラットフォームを形成して
解決したい地域の課題

地域の存続

過疎、高齢化、将来の担い手不足

空き家増・環境の悪化

地域の未来を描くことが困難

地域のありたい未来

地域にある資源を生かした事業が着実に育ち、各地から、この地域での豊かな時間を過ごす為にひっきりなしに人が訪れる。
（社会の中の役割が、しっかりとある地域）

若い人が生き活きと事業に取り組んでいて、その事業が、そして、この地域がこれからも続いていくであろうことが予感される。
（若い人が育つ地域）

環境整備を通して構築する“地域プラットフォーム”のイメージ（体制、機能、規模感、等）

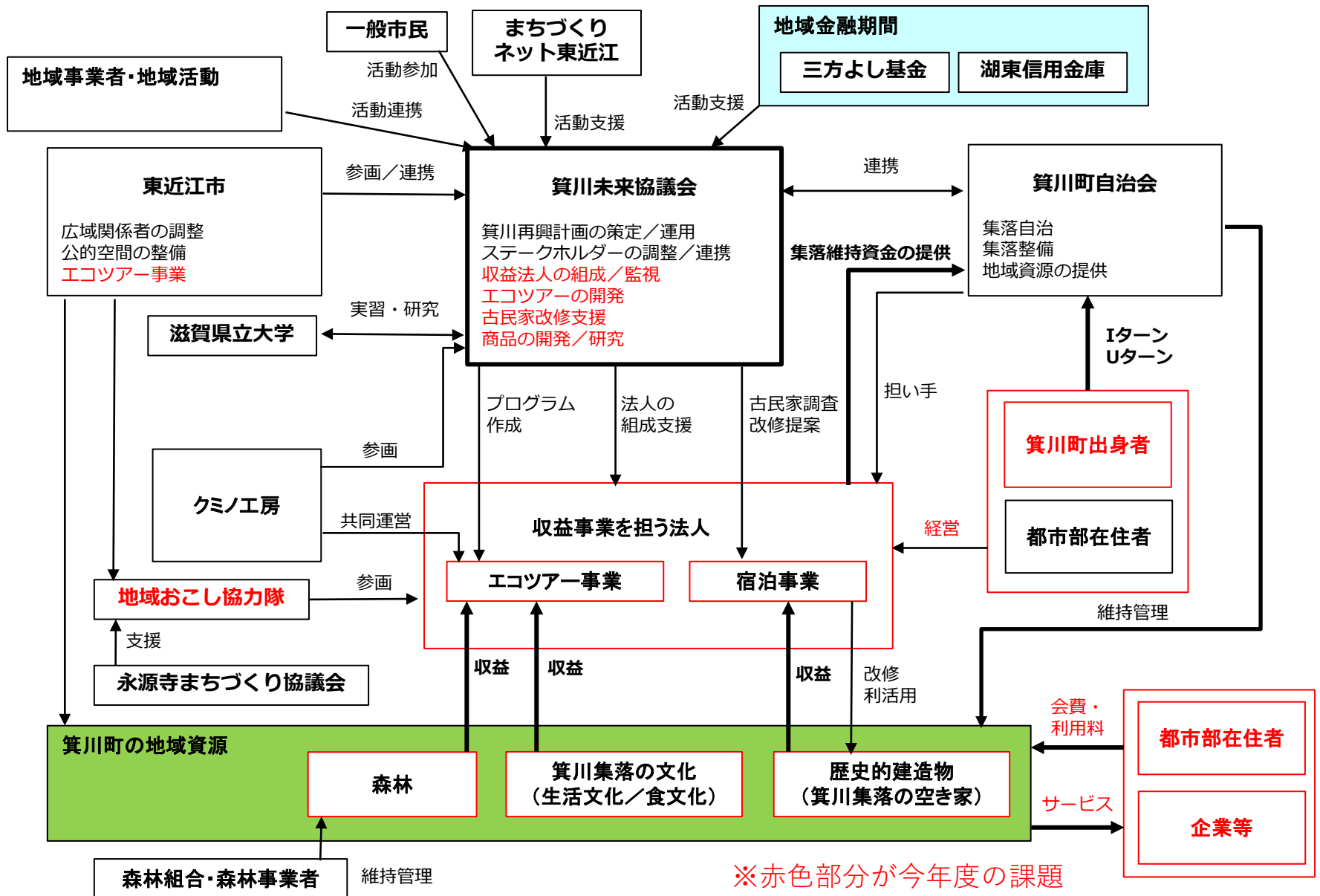
協議会・自治会・事業法人・事業者など、自立した主体同士が連携・協調できるようにする。協議会は活動の中で人と人が出会う場として運営し、収益事業は今後設立する事業法人が担う。箕川町はキャパシティがそれほど大きくないので、活動方針に共感する人に会員になってもらい、まずは基金を作り、会員制のサービスから始める。

想定している資源（ヒト、モノ、資金、情報、等）※地域内、外も含む

地域の景観・立地・古民家・アクセスのしやすい林地・地域で事業を行う若手
・行政との連携（エコツアー事業・地域おこし協力隊）・クミノ工房の事業
・整備中の国道や高速道路（交通）・ビジョン

目指す“地域プラットフォーム”のイメージ

2023年3月 1年後の地域プラットフォームのイメージ



地域の「ありたい未来」を実現するために何をするか

地域のありたい未来

想定する未来は2050年。日本各地、世界各国から、この地域での豊かな時間を過ごしに、ひっきりなしに人が訪れる。若い人が生き生きと事業に取り組んでいる。その事業が、この地域が、これからも続いていくであろうことが予感される。

地域のありたい未来を実現するために、中長期的に見て必要な取組や仕組みは何か

前提) 普遍的に価値があるもの、本質的な活動でなければ、中長期的に続かない。

問い) 美しい自然や町並みに触れると心洗われる思いがするでしょうか？

→環境整備を行う。持続的に行えるよう、事業の中で実現されるようにする。

その地域の環境を資源とした事業を行うことが必要。

前提) この地域で過ごしたいと思う若い人がいなければ、地域は存続できない。

問い) 若い人に取っての価値ってなんだろう？

→共感したビジョン、見つけたビジョンを実現するという、創造的な仕事に挑戦でき、成長を実感することができる。そのような事業を行うことが必要。

今年度取り組みたい事 (本事業でチャレンジしたい事)

- ・活動 (古民家の再生、森林アウトドアフィールドの整備) を通した関係づくり
- ・再生した古民家や、森林アウトドアフィールドを用いた事業の計画と試行
- ・事業を担う非営利法人の設立 (若いステークホルダーで経営を実践し成長)
- ・事業を行うための資金調達 (会員募集・クラウドファンディング?)

年間スケジュール

